

007 _ Re: Create Garage ~まちと森を繋ぐ原点を~

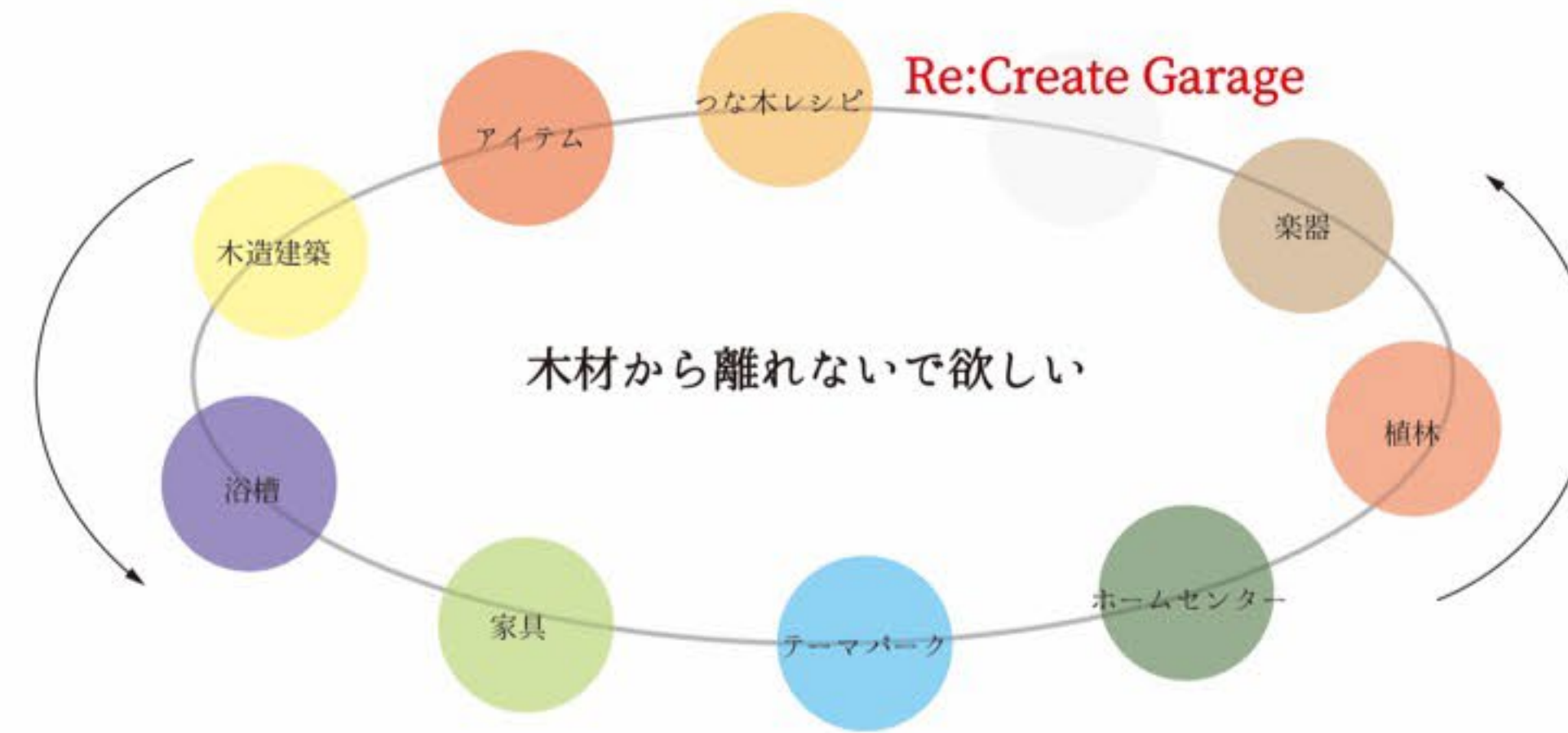


近年人々は木材に触れる機会が減っている。
その点ガレージは木材に触れる機会が多くある。

本提案ではガレージの木材の積み方を変える。
そこには従来のガレージとは異なる魅力がある。

ガレージにある木材は誰でも手に取れる。
その借りる帰すの関係がガレージを常に変化させる。

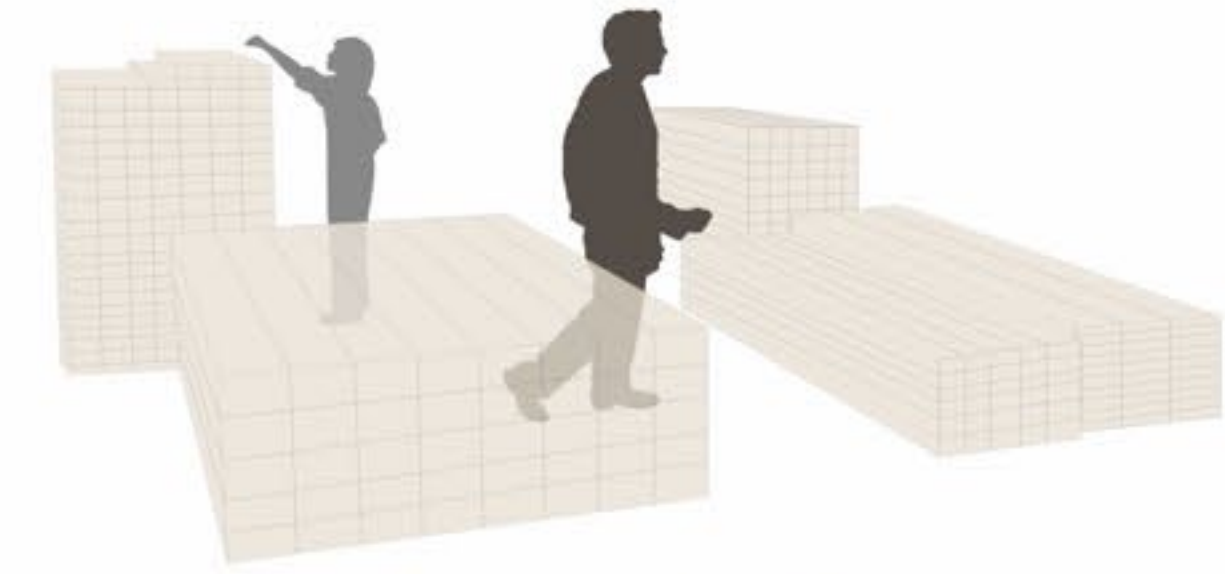
街の人々は木とともに暮らす生活に憧れ、
気軽に訪れ、触れられる
「つな木のガレージ」に足を運ぶ。
そんな「森と街をつなぐシステム」を提案する。



ユーザーが木のコンテンツから離れないことが重要。

同業者と争うのではなく、共生していくことで森と街を繋げる。木のコンテンツを持つ事業者とともに長い年月を掛け、街に木材の良さを伝えたい。

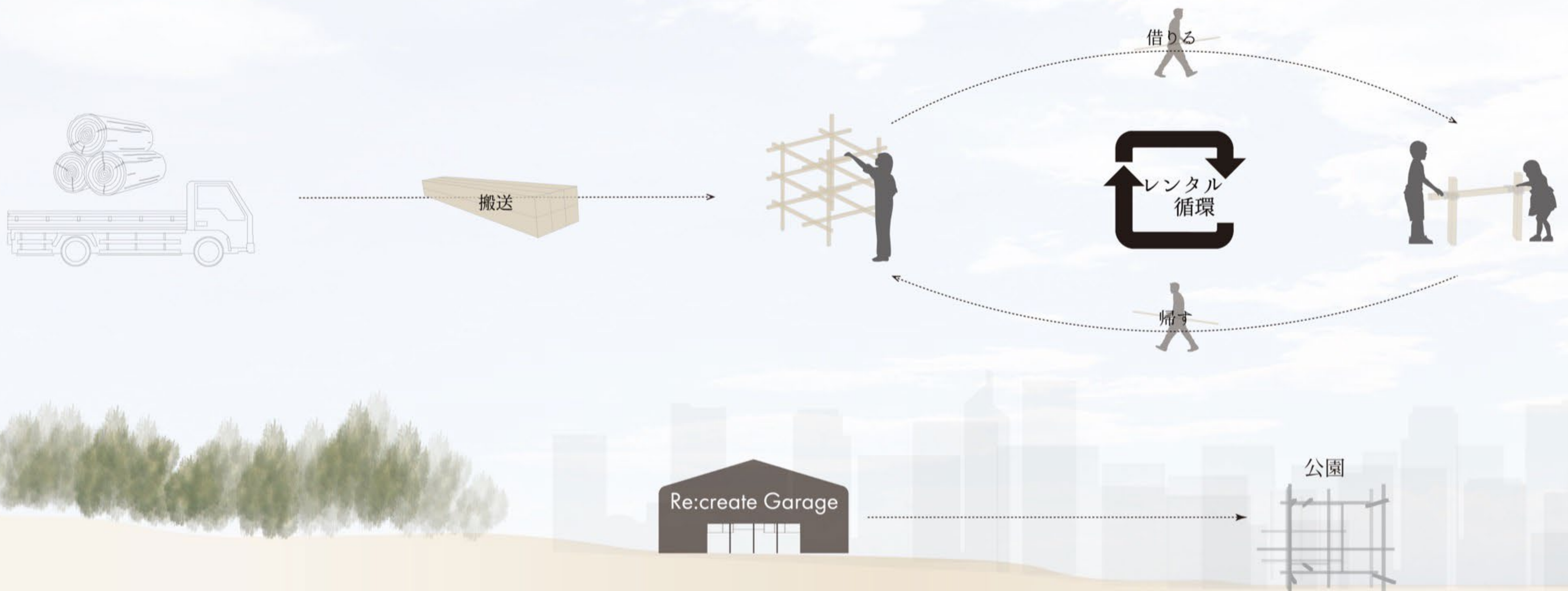
Before



After



森と街をつなぐシステム



クランプ・木材面積

ガレージ

■クランプ	1278 個
■1000mm	85 本 約 0.17 m ³
■1500mm	50 本 約 0.15 m ³
■2000mm	668 本 約 2.7 m ³

木材の合計体積 約 3.02 m³

公園

■クランプ	612 個
■1000mm	67 本 約 0.06 m ³
■1500mm	75 本 約 0.23 m ³
■2000mm	294 本 約 1.19 m ³

木材の合計体積 約 1.48 m³

広がり可能性

木材の保管には限界値がある。ガレージは室内から溢れ、外界へ伸びる。
つまり、ガレージは限界値があるが限界はないということである。
そして人々の需要に応じ、公園等にも広がる可能性があり、特定の敷地を要求しないこの「Re:Create Garage」はさまざまな地域に侵食し始め多くの人の身近な存在となる。

公園に広がる

従来

本来公園は人々が楽しめる場所として設けられた場所。しかし財政に課題を抱える自治体も多く、公園の整備や維持管理にかけられる予算も確保が難しい。

また、ユーザーが公園で遊ぶ頻度と時間が減少している。

本提案

人々のライフスタイルや価値観はますます多様化し、公園も応える必要がある。
つまり全方位的に生活活動・時間を受け入れるポテンシャルを備えていくこと。

公園がプラットフォームの役割を担い、みんなで創る「共創」が重要である。公園につながる木が広がり、昔よりももっとユーザーに近い立ち位置で、生活インフラとなる。

街に木材が溢れる

ガレージ・公園から始まり、街につながる木が広がる。
そして長い年月をかけて「街が森」になってほしい。
そんな願いを込めた提案である。



ガレージは内蔵量が限界値となった時、溢れる



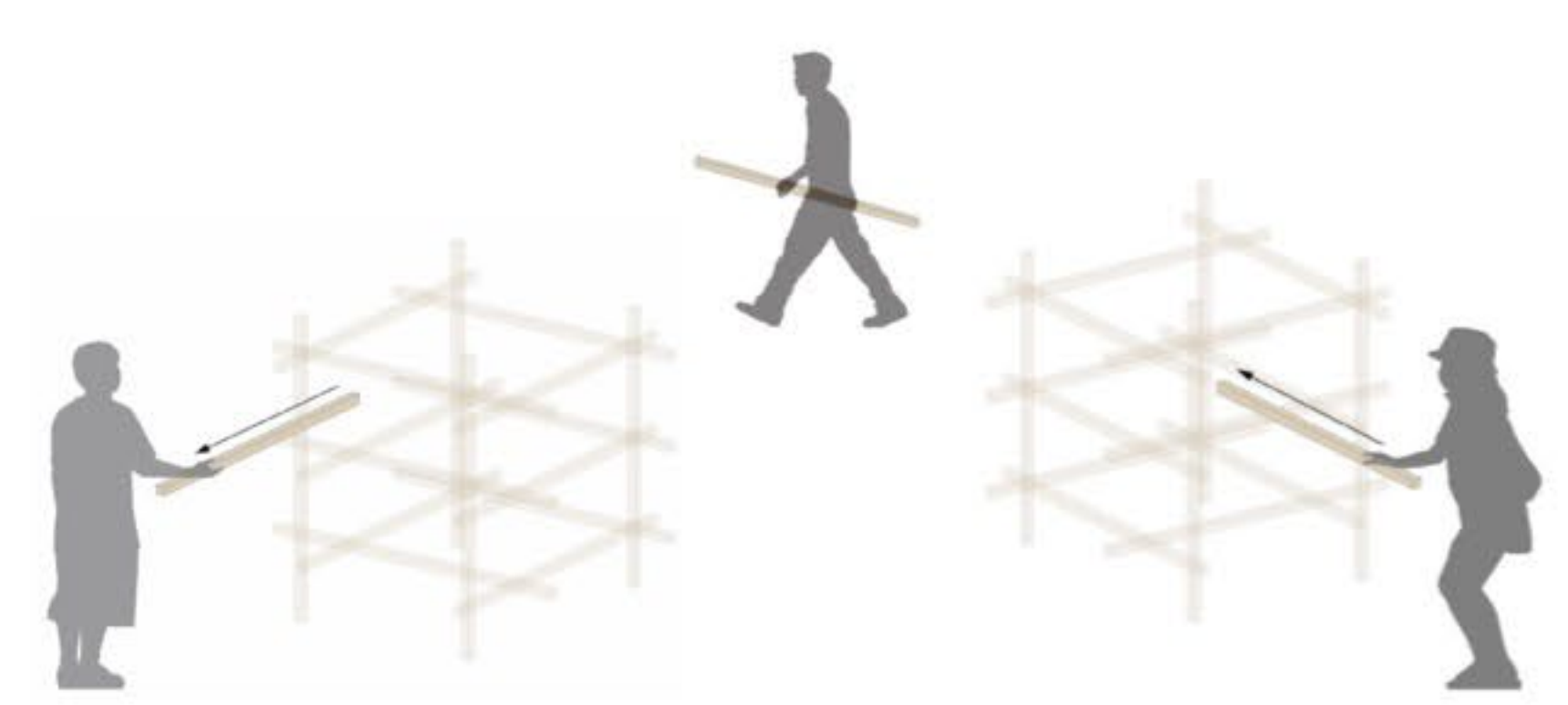
ガレージが溢れた場合、都市の空き地となっている公園にも広がる

街と森のつながり

木材に無関心な消費者を満足させるのは難しく、何か魅力があっても興味のない人は振り向かない。そのため、最初は木材に興味を持っている層をターゲットとする。「木材を好きな人」がその場で作品を創り、「木材に関心がない人」は購入を楽しむ。製作者とのコミュニケーションを取る場が生まれ、「木材に関心がない人」は木材の良さを知るきっかけを得る。

長い年月をかけて、想いの広がりが街と森をつなげることになる。

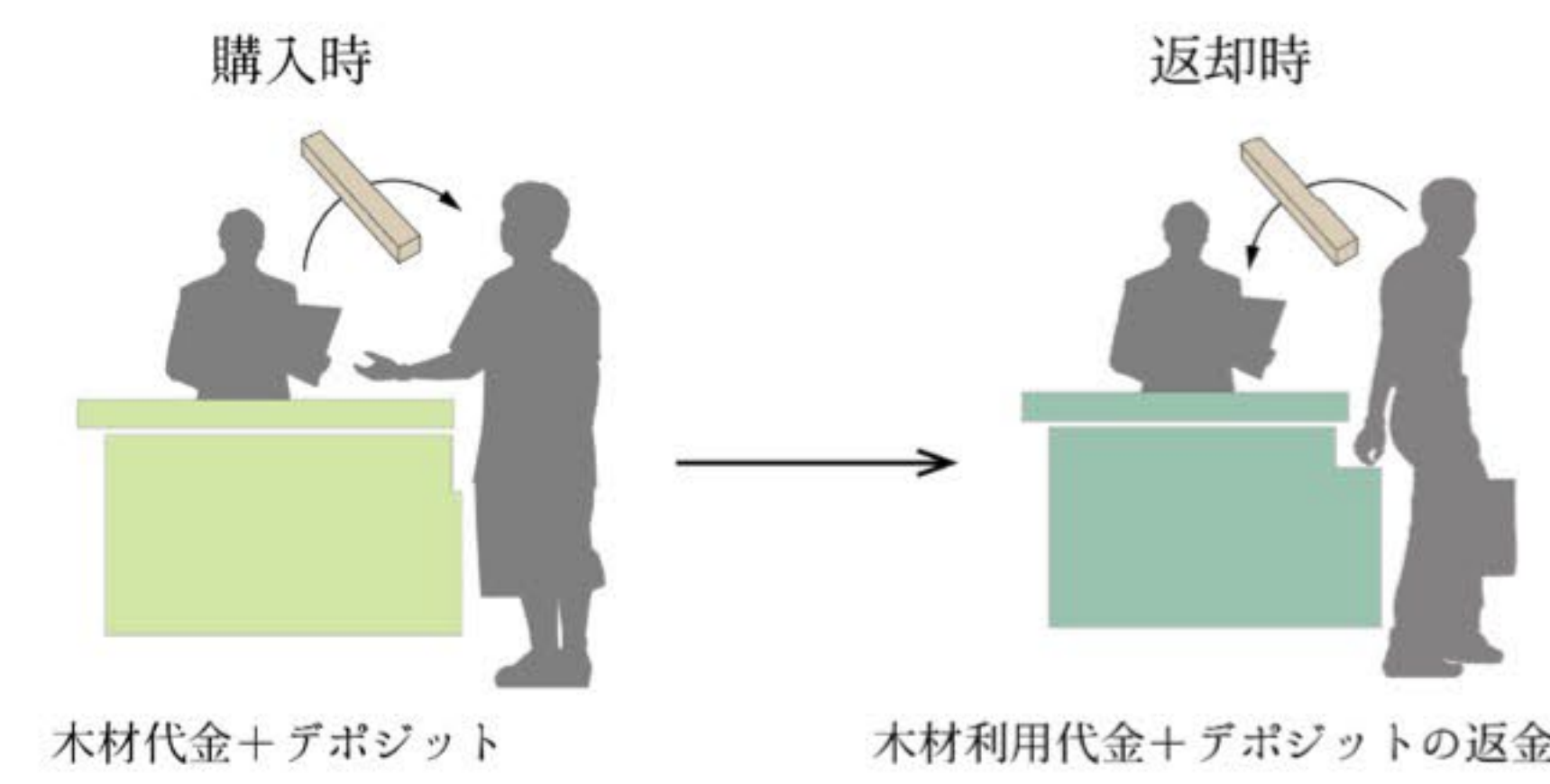
つな木のレンタル機能



このガレージはレンタル機能を持ち合わせ、誰でも気軽にガレージからレンタル、返却することができる。

この施設にはレンタル機能を無限にできるという期待がある。過去に体験した「レンタル機能」を「無制限」にできるという期待感が生まれ、人々は木材がより身近に感じる。

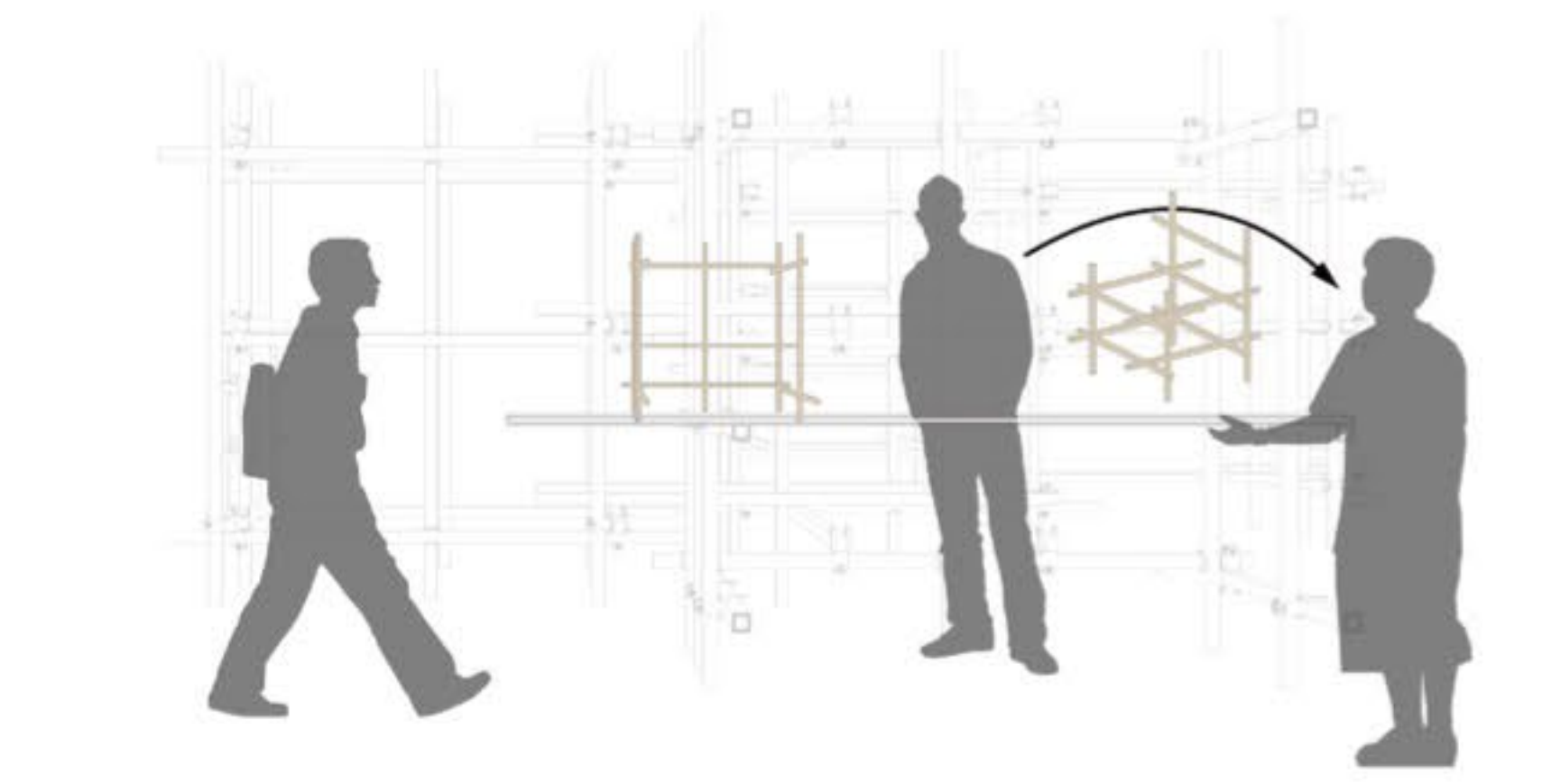
デポジット制度の導入



このレンタル機能はデポジット制度である。ユーザーに購入と返却を一連の流れとして認識してもらうことが可能になり、木材を広めるきっかけになる。

返却する際の汚れや破損等により、返却する値段を設定。

ガレージの可能性



ユーザーは木材をレンタルし、その場で制作したつな木の作品を販売し、他ユーザーは作品を購入する。いわば木材を保管する機能のみのガレージはフリーマーケットとしての機能を手に入れる。

他ユーザーは購入した作品をガレージに返金することも可能である。これは製作費のみを払い購入することである。



材木の積み方を立体的に変えるだけで人々が魅力的に感じる木に囲まれた空間

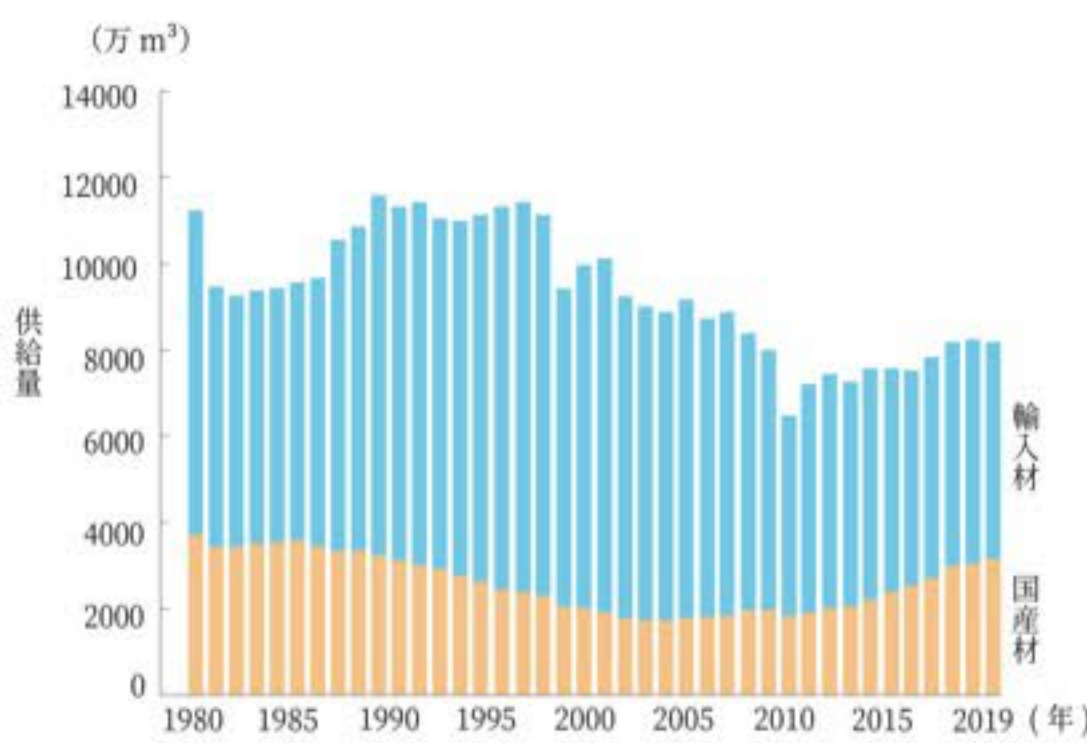


ユーザーにより編集される空間は材木やクランプを気軽にレンタル可能



レンタルした人々のアイデア・レシピはガレージに戻り、保存される

01 日本の林業問題



日本は世界でも有数の森林国である。しかし、国産材よりも輸入材が利用されている。そのため、多くの人に木材の魅力伝え、国産材の需要拡大を図る必要がある。そこで、均質な空間であるガレージを活用できると考えた。**街の人は木材の魅力に惹かれ、林業経営者は木材を貯蔵しに街へ。**そんな「**Re:Create Garage**」を提案する。

02 木材の流通



日本は多くの事業者が関わり合い複雑な流通構造である。最適な木材流通の形は、**素材生産業者の方が直接ガレージに貯蔵し、つな木として利用されることが国産材活用に向けた第一歩である**と考えた。

03 まちと森をつなぐ原点を



街に住む多くの人は木材の流通構造や原木の価格など知らないことが多い。ましてや、木材が貯蔵されている場などとは無縁の関係にある。そこで、街に住む人が木材に関心を持つような「**森と街をつなぐガレージ**」を創造する。

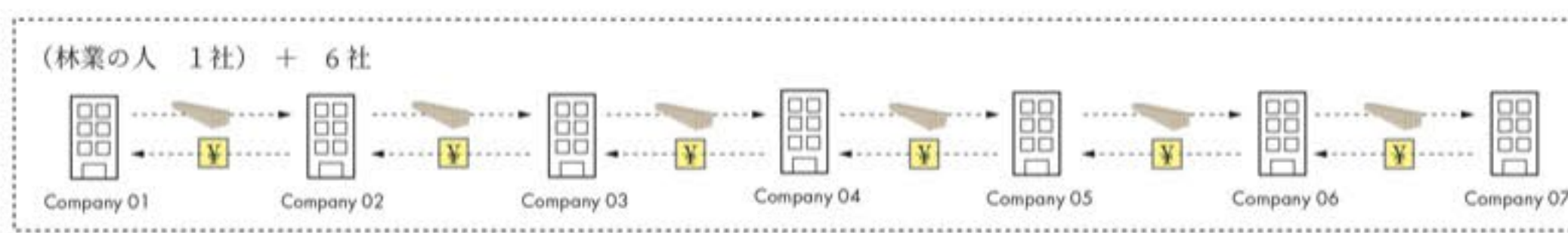
04 「Re:Create Garage」人が集う



このガレージが急に建っても人が集まるとは限らない。**人々の生活に介入する広告の役割を持つ「つなぎレシビ」がガレージという存在を知るきっかけになり、人は魅力を感じてそこに集う。**

05 森の人が集う

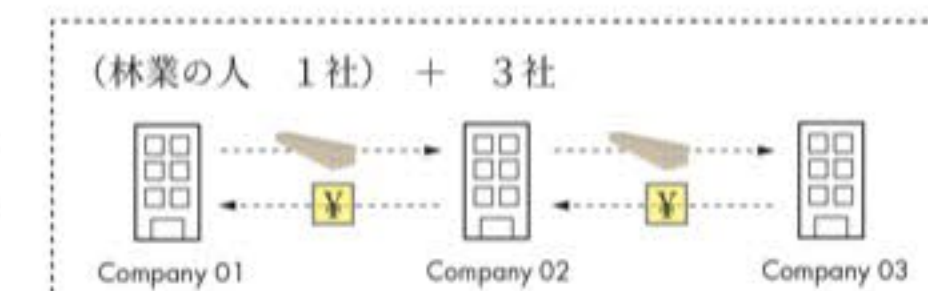
従来



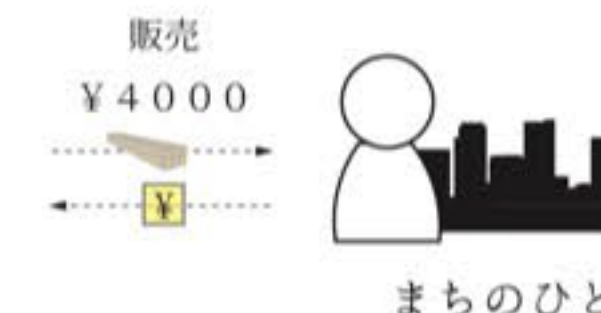
$¥4000$ (販売) - $¥2000$ (原価) = $¥2000$ (売り上げ)
 $¥2000 \div 7$ 与 $¥285$ (1社あたりの売り上げ) ¥: 売り上げ ¥285



提案

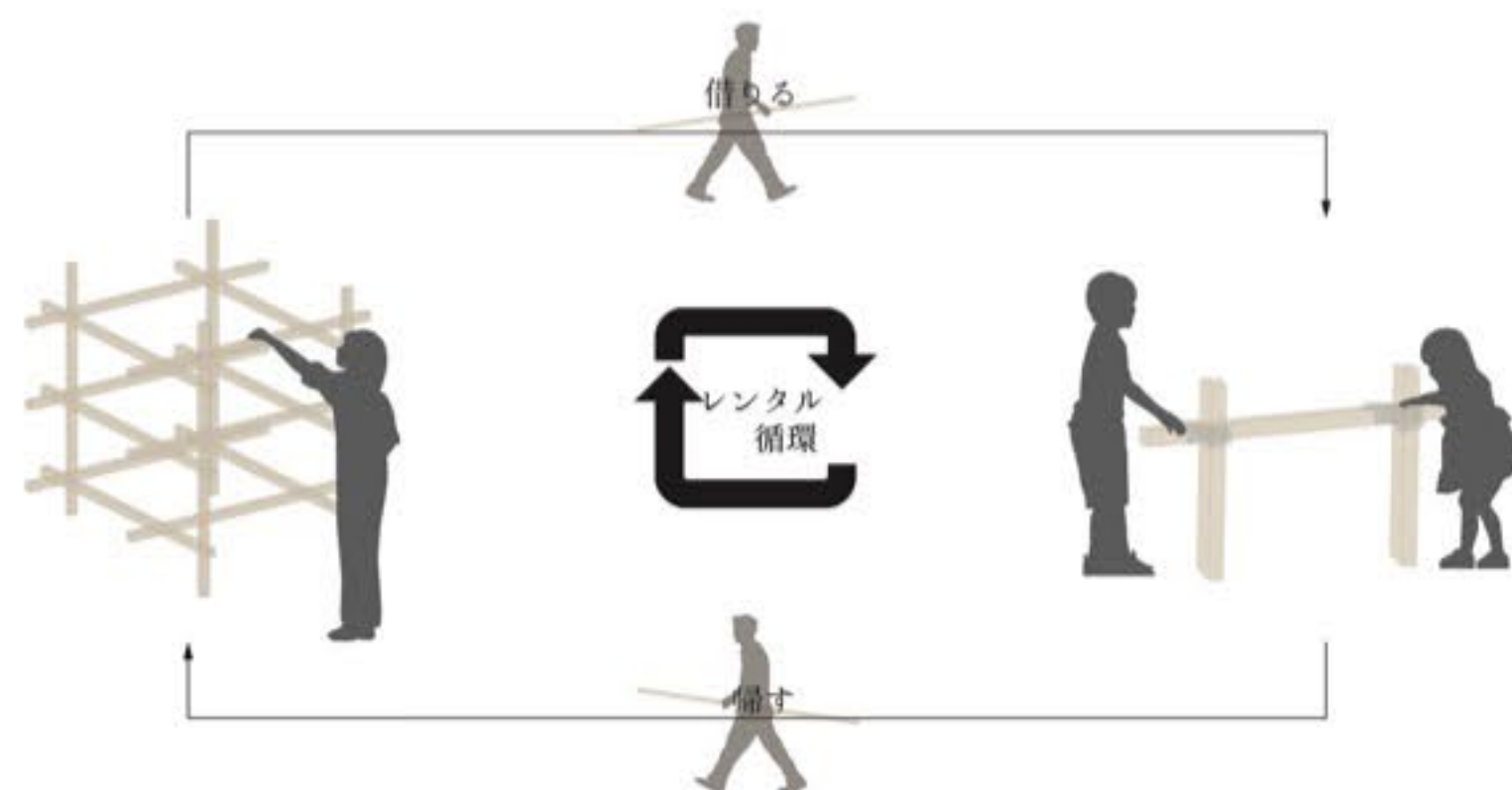


$¥4000$ (販売) - $¥2000$ (原価) = $¥2000$ (売り上げ)
 $¥2000 \div 3$ 与 $¥660$ (1社あたりの売り上げ) ¥: 売り上げ ¥660



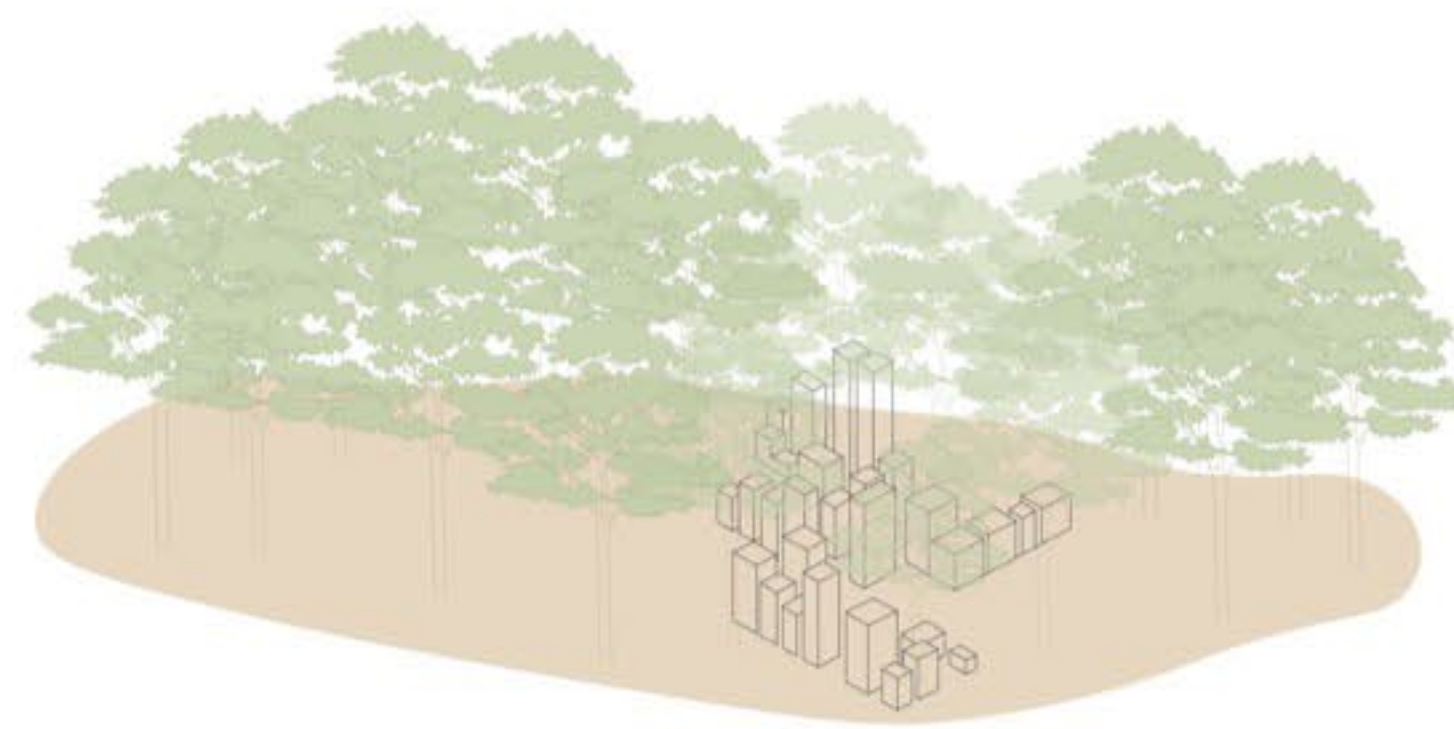
流通構造を簡略化することで、そこに至るまでに生まれる人件費や運搬費を削減。価格設定はイメージであるが、**木材の値段が安くなり、林業側の利益率も上がるため、双方にとってメリットがある。**

06 誰でも手に取りやすく



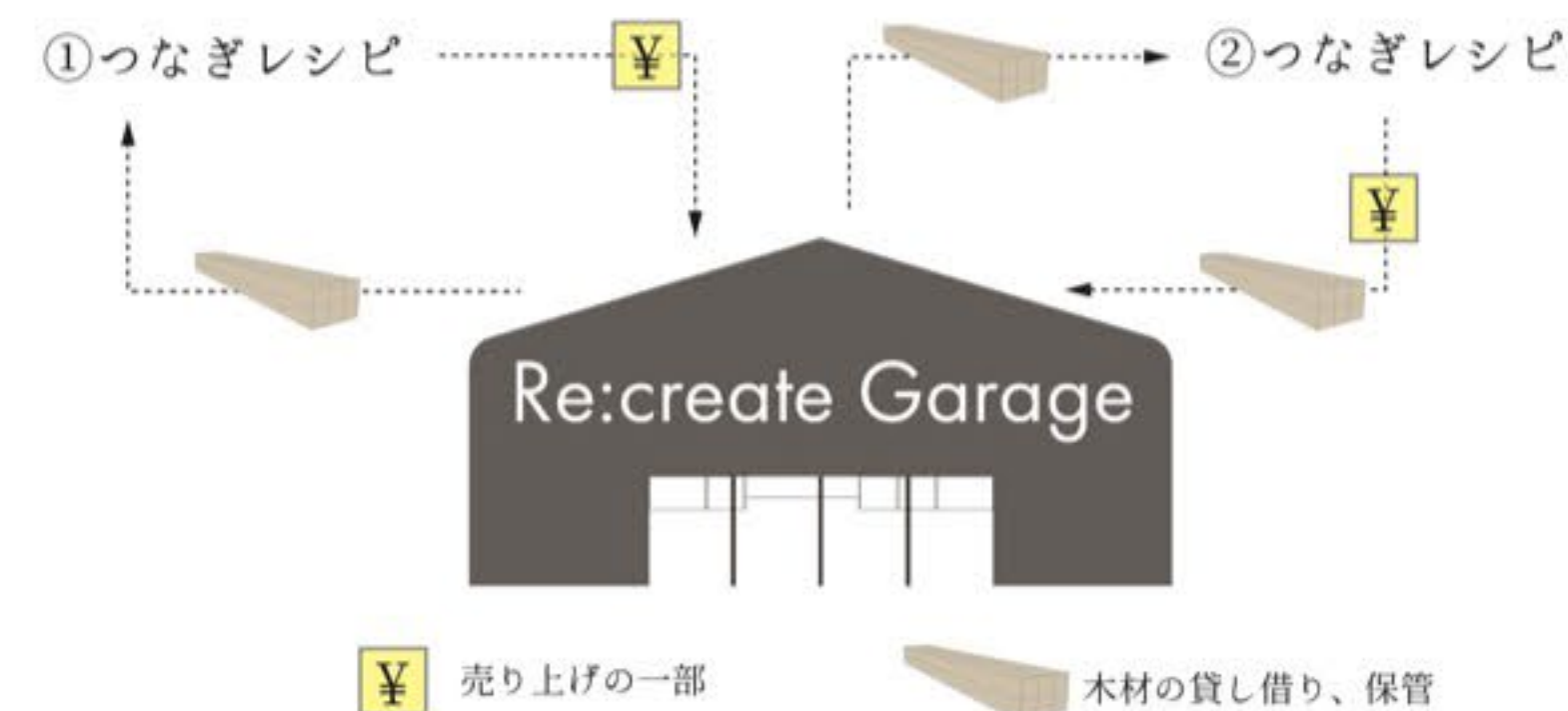
物は購入したら返すことがないため、判断までに少しの時間を有する。特に木材は判断が難しいと考える。このガレージは**レンタル機能を持ち合わせ、木材を誰でも気軽に手に取りやすくなる。**

07 街が森になる



ガレージから始まり、街につな木が広がる。その後木材利用者が増え、**木材を好きと思う気持ちが伝播する。**街に木が溢れ「街が森」になる。

08 実現性について



他のつなぎレシビに木材を貸し出す。売り上げの一部をいただくことで施設を運営・管理する。またつなぎレシビを保管する場としても活躍する。